

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	高年齢者の尊厳と自立を守るという企業理念のもといかなる場合も入居者様第一主義を守っています。	○	新会社となり社是「誠意・誇り・情熱」を実行すべく取り組んでいます。
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	毎日理念を唱和確認し、理念に基づいたサービスができるよう日々取り組んでいる。		
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	地域の町会に加入、今年度より老人会に加入した近隣の福祉施設での福祉会に加入などをし、地域の中に根付いたホーム作りをしている。家族の方にもホーム行事などへの参加をとおして、利用者様たちが地域の中で生活していく大切さを理解していただいている。	○	家族会など家族様同士の交流の場を持っているが集まっていただけの家族様が少ないので、今後の課題です。
2. 地域との支えあい				
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	玄関を開放し、暖かいときはテラスでお茶を楽しみ、近所の方たちも気軽にお誘いをしている。利用者の方たちと玄関周りのそうじなどで近所の方たちと気軽に挨拶を交わしたり、冗談話をされたりしている。		
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	ホーム行事の際、町内会、老人会の方たちを招待している。また福祉会のまつり、小学校の運動会、などの行事の招待を受けている。職員も献血運動に協力するなど地域貢献に協力している。		

ニチイのほほえみ我孫子(あすなろ)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>老人会の会合、カラオケ、民謡などの集いの場に開放している。またホーム内がバリアフリーになっているので、車椅子の方たちが気軽にトイレを使っていたり、行政のほうに申し入れ協力している。</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>運営に関するチェックを毎月行い、自己評価している。評価報告書にて指摘されたことについては、改善すべく話し合い努力している。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2ヶ月に一回の運営推進会議では、いろいろと評価、賛同していただき、職員に伝達、向上に役立っている。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>地域社会福祉協議会、地域包括支援センターとは常に連携を取り指導、相談、など質の向上に向けての連携を取っている。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>青年後見人制度は入居者様の将来的に重要な問題なので、まず管理者が学び、職員に伝達すべく努力している。家族様からのご相談には、行政などに指導を仰ぎながら支援している。</p>	○	<p>理解していない部分も多いので、権利擁護について研修などに積極的に参加して知識を高めていく。</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>勉強会、テキストの読みあわせを行って、虐待0を心がけている。利用者様の不穏、暴言に日々対応している職員の苛立ち、悩みを全員で共有し、防止、0を目指し実行している。</p>	○	<p>利用者様の不穏、暴言に日々対応している職員の苛立ち、悩みを全員で共有し、防止、0を目指し実行している。</p>

ニチイのほほえみ我孫子(あすなろ)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時、ゆっくりと読みあわせを行い、疑問点は読み見合わせ中も納得のいくまで説明、理解していただいている。解約時は、特に金銭トラブルの無いよう十分な説明を行い理解、納得していただいている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>入居者様からは気軽に意見、不満、苦情を言っていただけるような信頼関係を構築させて、それらの意見等を職員全員で共有し解決緩和すべく話し合い、改善に努めている。</p>	<p>○</p> <p>入居者様同士の小さな諍いが、日々起こっているのが職員同士の連携を密にし、その都度カンファレンスをおこない実行している。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月15日前後にほほえみ便りを、1ヶ月間のご様子、身体状況、行事ご案内などを請求書、領収書と共に郵送している。時にはお元気なご様子を写真撮影し同封している。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関先に相談、苦情の窓口を表示している。また家族様が気軽に意見、苦情、不満を言っていただけるよう信頼関係を構築し実行に移している。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月最低1回のホーム会議を開催し、意見、提案を話し合う機会を設けている。実行した案件に対しては、経過、反省の場を設けて職員全員で運営に参加している。</p>	<p>○</p> <p>ホーム運営に関して日々変化していく入居者様に対応していくため、行事、その他日常業務に関して、意見、提案を実行に移している。</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>職員の希望を最大限取り入れかつ、入居者様、家族様のご都合にあわせた、サービスができるよう、常に4交代制を取っている。行事、野外レクリエーション時は職員全員でサービスが行えるよう勤務調整を行っている。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>移動に関しては、行わない方針で、利殖に関しても最小限に抑えるため、面談を行い理由を明確にし、希望に添えるよう努力している。なじみの職員の退職には入居者様の寂しさを緩和すべく、退職事情をやむおえない事情(結婚、引越など)として説明している。</p>	

ニチイのほほえみ我孫子(あすなろ)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修、外部研修、大阪府、大阪市の研修には勤務を調整し受ける機会を設けている。 ホーム内においては伝達研修、介護技術のデモンストレーションを行い知識、技術の向上を進めている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社内のホーム間の交流、相互訪問などを通して質の向上を行っている。 地域のグループホーム協会に加入、勉強会、交流をめざしている。	今までは社内のホーム間などの相互訪問、勉強会への参加などで、外部に向けての交流が少なかったためこれからの課題として取り組んでいる。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員の悩みや要求を個別面談をし、解決策を共に考えていけるよう取り組んでいる。必要に応じて、社内の上司面談などの機会を設けている。	○ 解説間もないので、会社への不満、要望も出てきているので、これからの取り組むべき課題も多々あるので、対処するべく取り組んでいる。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の努力、実績、勤務状況には特に把握、向上に向けて個々気配りを行って、向上心を煽るべく取り組んでいる。	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご相談を受けてから、何度か必要に応じて訪問し、信頼を深め本人様が心を開いて、要望を伺い不安を解消できるようにしている。 入居時は寂しさ、環境の変化から不安になるので、本人の気持ちをゆっくり傾聴して安心して生活ができるようにしている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	特に家族様は介護疲れが蓄積している場合が多いので、安心していただけるよう配慮して、家族様の求めていることを聞く機会を多く持ち、受け止めていけるように努力している。	

ニチイのほほえみ我孫子(あすなろ)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様、家族様の求めているものをまずサービスとして対応して、安心して生活していけるよう配慮、支援していけるよう努力している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	環境の変化は不安要素となるので、今までの生活環境を踏まえ、家族、職員間が情報、サービスを共有してホーム生活に馴染めるよう、ゆっくと不安の一つ一つを解消していけるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は家族の一員として、共に生活していく場としていけるようにしている。不平不満などを一方的に聞くだけではなく、家族と一緒に考え笑い、喜び時には言い争い支え合って暮らしています。出勤時は「ただいま」退勤時は「行ってきます」を職員全員徹底実行して本人様に寂しさを感じさせないようにしている。	○	帰宅願望の強い方への接し方に思考模索している。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	本人様の状況をお知らせし、本人様の生活の安定、充実のための情報共有し共に支えていると実感していただいている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	職員は家族関係の情報を理解し、良い関係が保てるよう努力している。本人様にとって家族様が一番の存在だということを、日々の生活の中での本人からの言葉などを伝え、良い関係が送れるよう支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、親族、友人などの訪問は頻繁に行えるように支援している。面会時の外出も積極的に支援し、関係を密にさせていただいている。	○	なじみの場所への外出などは、帰宅願望、外部徘徊につながると思われ、躊躇している。これからの課題にしてい
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者様一人一人の性格を把握し、ホーム生活を楽しく、仲良くすごしていけるよう支援している。		

ニチイのほほえみ我孫子(あすなろ)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去後も家族の一員として、ホーム行事への参加ご案内、ご本人様家族様のご相談に応じられるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様一人一人の意向を重視して、安心して日常生活が送れるよう本人本位に検討している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式に取り組み、職員一同で一人一人の生活暦、取り巻く環境を把握するべく取り組んでいる。	○	業務におされてなかなか取り組みが難航している。ゆっくりだが取り組みつけていきます。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	その人らしい暮らし、その有する能力に応じた自立支援を行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人本位を基準として、家族様の意向をも取り入れ、それぞれが役割を持って家庭的な環境のもと生活できるよう、本人、家族など関わる関係者たちで話し合い介護計画を立てている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本3ヶ月に一回、変化がおきたときはその都度、ケアカンファレンスを開き、現状に踏まえた新しい介護計画を作成、実行している。		

ニチイのほほえみ我孫子(あすなろ)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活を介護記録に記入、また1日2回のバイタルチェックを行い健康管理を行っている。記録は職員、医師、家族も共有して実践、見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	遠方からの家族様の面会に対応できるよう、和室を利用したの宿泊、順応性のある食事作りを生かしての急な面会時の食事提供など柔軟な対応をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	必要に応じて各公共機関、地域ボランティアの協力を依頼している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人、家族の意向に応じて、他のサービスを利用、活用している。 現利用しているサービスは、訪問歯科、訪問マッサージ、介護タクシー、ディサービス、福祉用具など。	○	今受けているサービス以外にも本人様の自立支援に役立つものがあるかを、模索するための情報収集を行っている。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	必要に応じて、相談、指導を仰いでいる。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	開設以来の(前会社を含め2年)往診医との信頼関係を維持しており、24時間体制にて往診(2/週、必要時)相談、緊急時と医療が受けられるよう支援している。	○	医療連携に関して検討中。

ニチイのほほえみ我孫子(あすなろ)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		医療連携体制検討中。
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	職員の医療の知識を高めるため、いろいろと取り組んでいる。
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	今後ケース発生時は本人にとって、最良の日々を送っていただけるよう知識向上に向け取り組んでいく。
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	○	退去後の支援には細心の注意を払い対応しているが今後の課題である。

ニチイのほほえみ我孫子(あすなろ)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	敬語での声かけを基本とし、丁寧な対応をするよう取り組んでいる。名前の呼び方には親しみ、本人希望などにより、姓、名と個々呼び分けている。	○ 慣れや、親しみから声かけや対応が乱れないよう、これからも十分に注意する。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	食事内容や、飲み物。または服装にいたるまで、自己決定を基本としている。入居者が何をしたいのか、求めているかを常に確認し、ケアをするよう配慮している。入居者の状態に合わせて、十分に時間をとり説明し、意思確認するよう努めている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者に「待ってください」と声をかけることのないよう、希望を優先するケアすることを心がけている。朝食などは、起きてきて準備の整った人から食事を提供するなど、入居者のペースに応じて対応している。	○ お客様のペースに合わせられるよう、あえて綿密なスタッフの業務タイムスケジュールは作っていない。それにより時間に柔軟さが生まれ、入居者のペースに十分に対応できているので引き続き取り組んでいく。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	なるべく居室の鏡台を利用し、身だしなみを整えて頂けるよう誘導している。また外出時には、その場に応じた服装や女性にはお化粧をすすめ、お洒落を楽しんで頂いている。一応訪問美容を利用しているが髪型などは本人希望に沿うようにしている。なじみの美容室への外出に関しては家族様対応にて希望を実践している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日、買い物に行き食材、メニューを一緒に決めている。料理のできる入居者には一緒に調理して頂いている。また車椅子などで台所に立てない方にはテーブル席での調理、食器拭きなど孤立しないよう支援している。	○ 各入居者のできること、好まれる作業を把握し、安全に調理ができるよう引き続きサポートしていく。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	現在、お酒、たばこに関しては、望まれる方がいないので行っていないが退居された方で喫煙する方に管理のみで自由に吸われていた。おやつは、糖尿病など健康状態に問題がなければ、特に規制はしていない。	○ 今後ケースが発生した場合は嗜好品に関しては、健康を害する危険性も含まれるので、本人、医師、または家族と相談のうえ検討していく。

ニチイのほほえみ我孫子(あすなろ)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	日中は、排泄パターンに合わせたトイレ誘導を行っている。また、大きな声での声かけはせず、他の人に気付かれぬようプライバシーに配慮した誘導を行っている。	○	使用するパットの種類や大きさ、使用方法など、各入居者にあつた排泄方法をその時々に応じた支援を検討する。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	個々のペースに合わせてゆっくりと入ってもらっている。午前中から20時までの希望に合わせて、入浴できるよう支援している。毎日入浴の声掛けを行って、本人の自由意志にて介助見守りを行っている。毎回声かけ拒否をされる方には誘導を検討し対応している。	○	健康状態と、時間が許す限りは毎日、入浴ができるよう引き続き支援する。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	眠剤を使用せず、日中の活動を増やしたり、入浴時間を変えたりの工夫をしている。無理に入眠を強要せず本人のペースに合った睡眠ができるよう支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑仕事や料理などは経験してきた入居者に教えてもらいながら行っている。また洗濯たたみや食器洗いなど長年培ってきた生活習慣は、本人の役割として出番を作っている。	○	各入居者のできること、好まれる作業を把握し、本人のプライドを守りながら、さりげなくサポートしていけるようセンター方式を取り入れ取り組んでいるが日々の業務におさされて進捗できない状況にある。今後の課題として取り組んでいく。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームは立替金制度を実施しているため本人が金銭を持つことができないため本日々の買い物の金額、新聞広告などを通して金銭感覚を失わないよう支援している。買い物に言った際、個人で欲しい物を買うことは行っている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い時には、毎日散歩や買い物に出かけている。近隣の喫茶店や地域の催しに出かたりと、地域交流も兼ねて、外出を楽しんで頂いている。近隣のスーパーや、喫茶店も顔なじみとなり、地域交流の場となりつつある。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節に応じた場所に行事計画をし、家族を招待している。この秋は回転寿司店や大阪城公園など、比較的遠い場所への外出を支試みている。	○	今後、家族の協力も得ながら、旅行なども検討したい。

ニチイのほほえみ我孫子(あすなろ)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人、家族の希望に応じて、電話、手紙の取次ぎをしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族の訪問は面会時間は決めておらず、来られたら居室やリビングで過ごしてもらっている。夏祭りなど行事の時に家族に訪問してもらえるような取り組みもしている。事前に伝えていれば、同じ食事を家族と一緒に食べてもらえたり、宿泊できるよう寝具の準備もある。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	理解している。身体拘束は一人も行っていない。玄関、ユニット扉についても施錠せず、開放的な雰囲気を保っている。	○	今後も身体拘束ゼロを目指す。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	各ユニットの入り口、玄関ともに鍵や扉を開けている。2階は暖簾にかけた鈴の音、1階は玄関のセンサーの音にスタッフが反応し、対応している。ユニット扉の暖簾には鈴飾りをつけ、プライバシーを尊重しながら、外部徘徊を防げるよう工夫している。また階段へ続く二階廊下には、季節の作品を掲示するボードを設置し、階段への関心をそらしている。	○	毎朝申し送り時、外部徘徊への注意、申し合わせを行っている。これからも慣れることなく行っていく。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼間は本人の行動を束縛しないよう配慮しながら所在を把握、安全を見守っている。夜間は1～2時間毎の巡視を行っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	調理時、包丁を自力にて問題なく使用できる方、見守り強化や半介助することによって使用することができる方など、使用禁止ではなく一人ひとりにあった方法を検討している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	外部徘徊や、下肢筋力が低下している方の立ち上がりなど、入居者一人ひとりに考えられるリスクを、想定し事前に防げるように検討している。	○	事故防止に対する勉強会や、定期的な防災訓練などを実施しているが、より知識を高めれるように取り組んでるが今後も引き続き取り組んでいく。

ニチイのほほえみ我孫子(あすなろ)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署が開く救命講習を受講し、基本的な初期対応を学んでいる。	○	未だ講習を受講していない新職員が数名おり、早急に申し込み予定。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ホーム内に防災マップを掲示。避難場所をすぐに確認できるようにしている。また、定期的に防災訓練を実施し、避難方法、経路の確認を行っている。	○	定期的に防災訓練を行っているが想定を変え何度も実施していく。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居時に考えられるリスクの説明を行っている。入居後も定期的に現在の状態と、考えられるリスクを報告し、家族様の理解を得られるよう、努めている。	○	行事レクなど家族にも参加を願い、入居者が今、現在どのような状態であるかを理解して頂ける機会を増やすよう取り組んでいる。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	午前と午後、一日二回のバイタル測定を実施。体調不良の早期発見に努める。また主治医は2週間に1回の往診と共に、24時間体制で連絡、相談ができるよう体制をとっている。バイタル測定だけに頼らず、排泄、食事、水分摂取量などから異常がないか、生活状況をよく観察している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	写真入の薬の説明書で職員は副作用、用法等を理解している。また薬剤師がホームにて分包。与薬しやすいように整理している。薬に関してわからない事があれば、すぐに医師、薬剤師に相談できるよう、連絡体制を整えている。	○	配薬時には必ず、口頭にて日付、氏名、数の確認を徹底し、誤薬のないよう、十分に注意を払っている。が、今後も今にもまし細心の注意を全員で把握していけるよう取り組んでいく。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食物繊維の多い、バランスの取れた食事を意識して提供している。便秘傾向の入居者については、医師との相談のうえ、食事内容や運動量など原因を追求し、対策を考えている。	○	便秘薬のみに頼らず、食事や、運動による排便コントロールを心がける。また腸の動きが良くなる体操など、積極的に取り組んでいるがよりよい方法を日々検討し実践している。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	殆どの入居者が自分で口腔ケアをしている。毎食後、歯磨き等をできるよう誘導し、行えるよう支援している。口腔内の異常や、ケアについてわからないことがあれば週に一度の歯科往診にて相談している。		

ニチイのほほえみ我孫子(あすなろ)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取に関しては一日1000ccを目標としている。毎日の食事量や1ヶ月に1回の体重測定にて、栄養管理ができているかチェックしている。食事量の少ない入居者に関しては、医師の指示のもと高栄養ドリンクなどをすすめ、健康維持に努めている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルにそった、消毒液とその使用方法を徹底している。また手洗い、うがいを勧め、感染予防に努めている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	マニュアルにそって調理器具の消毒、調理者の衛生管理を徹底している。また、毎日買い物をし、買い置きはしない。賞味期限には十分に注意している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先にはベンチを設置。ホーム内の介助用トイレは、近隣の方も使えるよう、表示している。ベランダから広がる庭や玄関先には、季節の花を植え、常に明るく親しみのある雰囲気を出している。また常に建物周囲の清掃を心がけ、清潔感を損なわないよう注意している。	○	近隣には園芸に興味を持っている方や、詳しい方も多々おり、良きアドバイザーとしてもっと交流を深めていけるよう取り組む。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生け花や観葉植物など、できるだけ自然に近い形で和みの空間を提供するよう配慮している。また、家庭的で落ち着いた雰囲気に近づける為、あえて普段の飾りものは必要最低限に抑えている。季節感や明るい雰囲気を出すために、飾りものを多くしがちだが、かえって落ち着きのある空間を損なう恐れがある。施設ではなく家庭であることを意識し、自然で清潔感のある空間を提供している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関や、ベランダの庭先にベンチを設置。リビングには和室があり、日のよくあたるスペースには椅子を設置。思い思いに心地よく過ごすことができるようにしている。	○	和室にこたつ、若しくはソファなどを設置し、誰もが使いやすく利用できるよう考えている。リサイクルにて考えているので、寄付していただける方をネット、新聞折込などで探している。

ニチイのほほえみ我孫子(あすなろ)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々の居室には家で使っていた家具を持ち込み、生活されている。女性の入居者には必ず鏡台を持ってきてもらっている。夫婦で入居している方の部屋は1部屋は寝室に、1部屋はリビングに使用し、過ごしやすいよう工夫している。	○	居室が単に寝るための空間ではなく、生活の一部として利用できるような環境を整えている。(※鏡台を設置し、共同スペースではなく、居室にて整髪や化粧ができるなど)
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎日、リビング、各居室の清掃時には必ず換気を行っている。また湿温度計にて、常に適度な状態が保てているかチェックしている。温度だけではなく、湿度にも気を配っている。湿度が低くなる冬季は加湿器を使用し、常に適度な状態が保てるよう十分に配慮している。	○	夜間は各部屋にぬれタオルを吊り、廊下には入浴時使用のタオルを洗濯したものを夜間使用しない手すりに干して湿度を保っている。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー設計で建てられたホームであり、手すりも豊富に取り付けられている。特に洗面台下の角の部分には、膝をぶつけないように目立つ色のクッションを取り付け、安全に洗面できるよう工夫している。また、便座の高さも少し高めにし、立ち上がりを楽にしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	各居室の前に表札があり、個々に違う折り紙などの飾りがある。名前の表示を好まない方にも飾りは行っている。風呂場、トイレは扉に表示している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダから菜園と花壇が広がり、常に季節の野菜や草花を楽しむことができる。ベランダにはテーブルセットを設置。暖かい気候時には外でお茶を楽しむことができる。	○	菜園で育った野菜は、皆で収穫し、食材として利用している。草花は、『生け花同好会』などを設け、レクレーションの一環として利用できるよう工夫する。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

ニチイのほほえみ我孫子(あすなろ)

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほほ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

職員全員、自立支援を合言葉とし、目標達成のため日々取り組んでいる。毎日30分ほど時間をかけ申し送り時一人一人のミニカンファレンスを行い実践している。

その結果認知症が緩和、ADLの向上に繋がっています。

入居者様と職員が一つの家族として安心して暮らしていくための試みとして、出勤、退勤の挨拶は「行ってきます」「ただいま」を実行しています。

この挨拶によって入居者様の取り残された寂しさを少しでも和らげていけると思っています。食事は必ず職員も同じ食事を一緒に食べ、家庭の雰囲気を出しています。

自治会、老人会、福祉会と地域の中に溶け込み参加させて頂いて、地域の中での生活も充実してきています。

買い物、散歩、外食、行楽と一年を通して外出の機会が多く、日々の暮らしが充実しているので入居者様の個々のレベルアップにも繋がっています。

これからの課題として職員の質の向上とケアプランの充実、センター方式への取り組みに意欲的に実行していこうと考えています。